

学校だより 9月号

平成 28 年 8 月 29 日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

【学校教育目標】夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL <http://koya-e.konosu.ed.jp>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

「偶然？必然？」 ～夏休み中にあったことを思い出して～

校長 渡辺 勝徳

夏休み中は、連日テレビ等でオリンピックを見ていた方も多かったのではないのでしょうか。日本中の人々が日本選手の活躍に心を一つにして声援を送り、改めて自分が日本という国の一員だということを感じた人もいらしたのではないのでしょうか。

ところで、先日の親子クリーン活動では、保護者の皆様には土曜日早朝にもかかわらず、親子で参加して、学校をきれいにさせていただきありがとうございました。また、おやじの会の皆様には「小谷小夏まつり」を今年も開催していただき、子どもたちの夏休み最後の思い出ができました。これらの活動のおかげで、気持ちよく2学期を迎えることができました。

さて、子どもたちはどんな夏休みを過ごしたことでしょうか？私の今年の夏休みのメインイベントは、今年2人の父（実父と妻の父）を亡くしたので、新盆を滞りなく執り行うことでした。実は、共に79歳だった父たちは育った環境や性格がそっくりでした。まさか同じ年に亡くなるなんて夢にも思っていませんでしたが、2人ともあつという間に亡くなってしまいました。共に妻にはがんで先立たれて暮らしていました。そんな2人の新盆の法要を滞りなく行い、親戚の方々と食事をしているときのことでした。ある親戚の方が私の記事が埼玉新聞に載っていたよというので、見てみると以下の記事が載っていました。

1977年、夏の高校野球埼玉県大会。シード校の城西大川越高校は、準々決勝で本庄高校と対戦。試合は、8回に代打の選手が2点タイムリーを放つた本庄高校が勝利…。それから38年がたったある夏の日。鴻巣市の市立小谷小学校で校長をしている私は、林間学校のお風呂場で出会った別の小学校の若い先生に声を掛けた。

「いい体していますね。スポーツを？」

「はい。城西大川越高校で野球をやりました」

「現在の監督さんは、塩沢さんですね？ 私も高校時代に野球をしていて、投手として塩沢さんのいた城西大川越と対戦しているのです…」

「塩沢は私の父です」

体は衝撃が走るような出会いだった。夏のグラウンドで、共に一つの目標を追い掛けた好敵手の面影が残る爽やかなほほえみ。そしてこの出会いには翌年、一つの「再会」につながった。当時の正捕手にして、現在は城西大川越高校野球部監督・塩沢力さんと、私たち本庄高校野球部OB3人との、数十年前の邂逅（かいこう）。あの夏の思い出とともに「高校野球で得たものを、若い世代に伝えたい」という思いで、話が華やいたのは言うまでもない。

（鴻巣市 55歳）

夏の好敵手

渡辺 勝徳

つた。夏のグラウンドで、共に一つの目標を追い掛けた好敵手の面影が残る爽やかなほほえみ。そしてこの出会いには翌年、一つの「再会」につながった。当時の正捕手にして、現在は城西大川越高校野球部監督・塩沢力さんと、私たち本庄高校野球部OB3人との、数十年前の邂逅（かいこう）。あの夏の思い出とともに「高校野球で得たものを、若い世代に伝えたい」という思いで、話が華やいたのは言うまでもない。

（鴻巣市 55歳）

驚きました。このことが新盆の法要の日の朝刊に載るなんて。この記事に書かれていることもまさに「偶然」のことですが、本当にあったことです。私は鴻巣市に勤務する前は、県北部の学校に勤務していました。こちらの地域には縁もゆかりもなかったのに、教育委員会の方も知らなければ、先生方をはじめ、保護者や地域の皆様も誰も知らないで小谷小に勤務し始めました。しかし、勤務してからたくさん「偶然」が私の周りに現れました。中学や大学の先輩、妻の知り合いの方、恩師の娘さん、近所の方の知り合い、友だちの親友、教え子のお母さんなども出逢い、たくさん「偶然」が私を驚かせています。もしかしたら、偶然ではないかもしれない。必然かも？と思ったりしています。その最たるものが上記の出来事です。これからも偶然のような出逢いの必然があるかもしれません。いつだったか、ある人に教わった言葉を思い出しました。「誰にでも誠実に接しなさい。自分が出逢った人が、いつ、どこで、どのように、またかかわってくるかわからないから。」

小谷っ子応援団！（３） 米づくり・稲刈り、芋ほり体験支援

小谷小では毎年、学校評議員の小林洋一さんご夫妻に、子どもたちのために水田や畑を貸していただき、田植えや稲刈り、芋植えや芋ほりを指導していただいています。毎年６月になると、５・６年は田植え、１～４年は芋植えを小林さん提供の水田と畑で行い、秋には稲刈りと芋ほりをさせていただいています。また、田植えが終わった後には、主任児童委員の江原浩昭さんご夫妻に合鴨農法をレクチャーしていただき、江原さんに用意していただいた合鴨数十羽を水田に子どもたちが放鳥させていただいております。合鴨農法は無農薬による農法で、環境問題等を考える上で、学ぶことが多く、子どもたちが実際に合鴨に触れたり、心臓の音を聞いたりして放鳥するので、動物愛護の気持ちも育ちます。▼ 小林さんには３０年以上にわたり、そして江原さんには１５年以上にわたり、毎年小谷っ子がお世話になっております。保護者の皆様の中にはご自身が小学生だったときにお世話になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか？小林さん、江原さん、ありがとうございます。